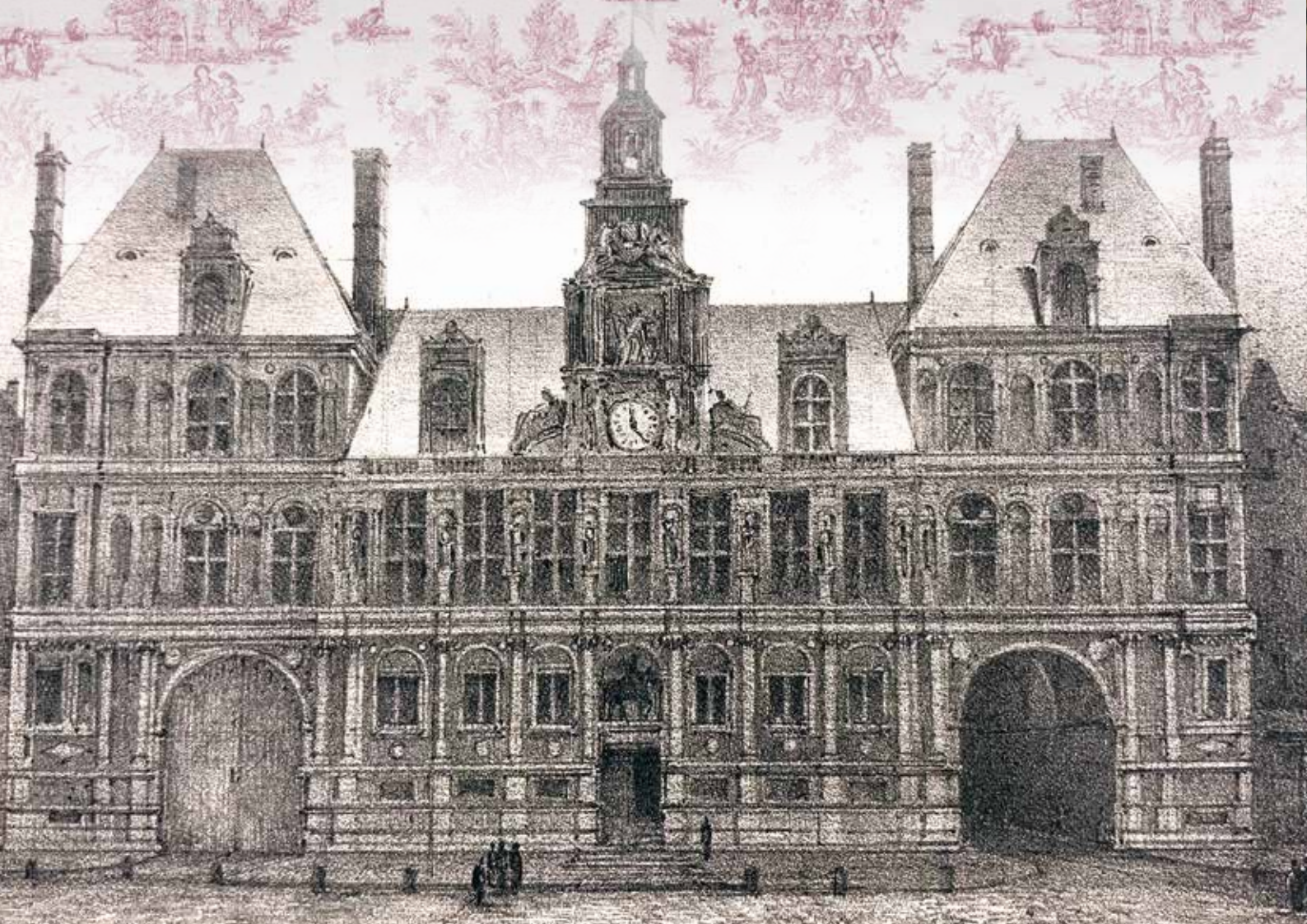


編集・発行：滋賀大学経済経営研究所
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1
滋賀大学彦根キャンパス
総合研究棟〈士魂商才館〉1 階
2020 年 1 月 7 日発行
<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/ebr.html>



企画展

はるかなる手紙

— 滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡 —

2020. 1.7 (Tue) → 12.25 (Fri)

Clément Colson 第1期

クレマン・コルソン

1月7日 火 — 4月30日 木

Léon Say 第2期

レオン・セー

5月7日 木 — 8月31日 月

François Guizot 第3期

フランソワ・ギゾー

9月2日 水 — 12月25日 金

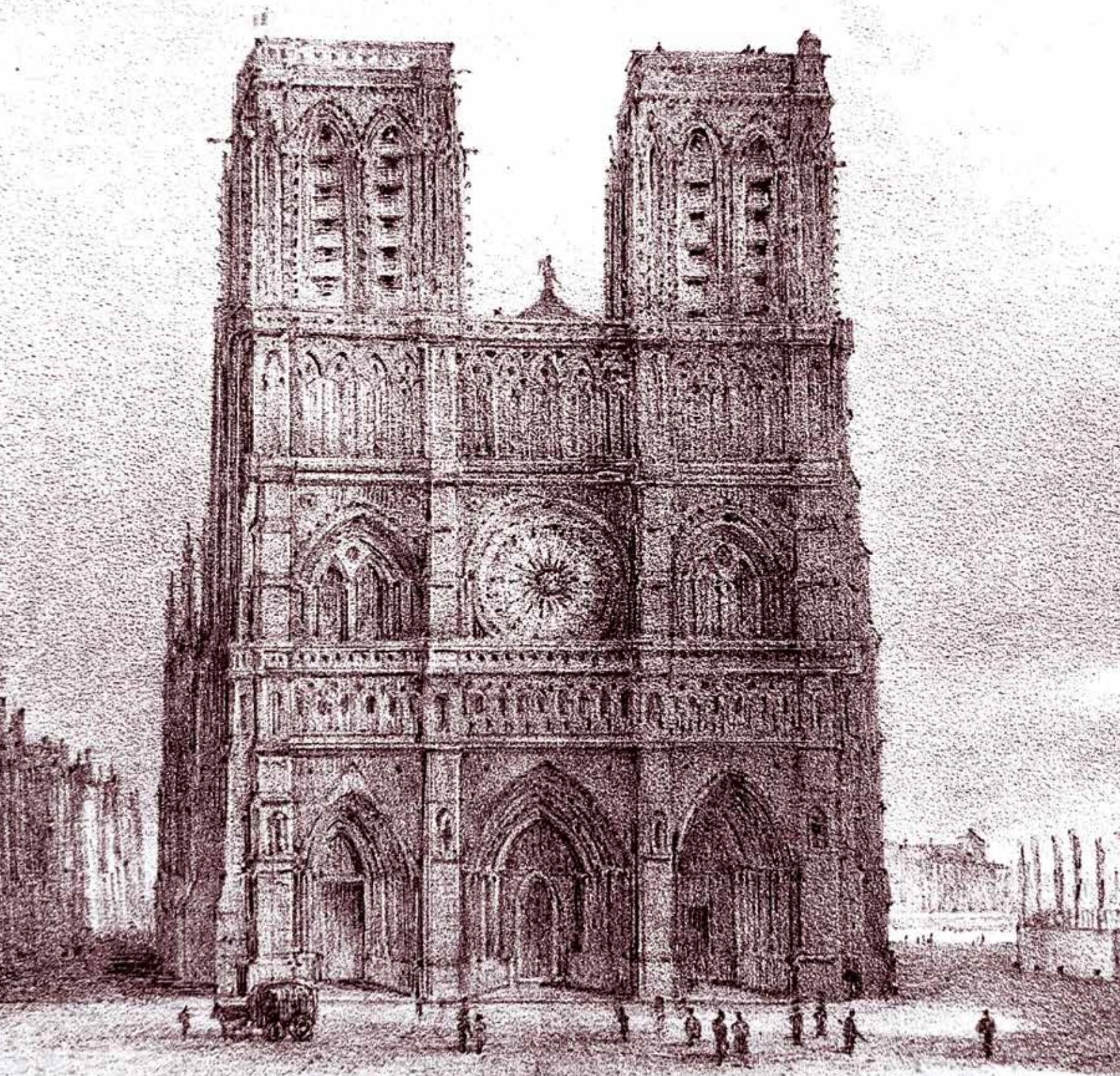


企画展

はるかなる手紙

—滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡

- ✓ 第1期：Clément Colson クレマン・コルソン
▶ 1月7日（火）～4月30日（木）
- 第2期：Léon Say レオン・セー
▶ 5月7日（木）～8月31日（月）
- 第3期：François Guizot フランソワ・ギゾー
▶ 9月2日（水）～12月25日（金）



ごあいさつ

今回の展示では、滋賀大学が所蔵する、フランスの3人の歴史的人物の自筆書簡を3期にわたって紹介します。これらの書簡はいずれも、偶然のめぐり合わせで滋賀大学にやってきたものです。

第1期に展示するのは、経済学者コルソン（Clément Colson, 1853-1939）による1923年付の書簡2通です。コルソンは、学者としてだけでなく高級官僚としても華々しい活躍をした人です。

第2期に展示するのは、経済学者レオン・セー（Léon Say, 1826-1896）の1883年付の書簡です。セーもまた財務大臣を3度つとめ、日本銀行の設立にも大きな影響力を及ぼしました。

第3期に展示するのは、著名な歴史家で、首相としても名を馳せたギゾー（François Pierre Guillaume Guizot, 1787-1874）の1833年付の書簡です。

本展示では、書簡の内容だけでなく、歴史的背景や、舞台となったパリの雰囲気もお伝えし、皆さんをはるかなる場所と時間の旅に誘います。

2020年1月

監修：御崎 加代子（ミサキ カヨコ）

滋賀大学経済学部教授（専門分野はワルラスを中心とする経済学史、フランス経済思想史）

参考文献：

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 Clément Colson (1853-1939) の書簡について」『彦根論叢』第380号、滋賀大学経済学会、2009、89-99.

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 Léon Say から Alfred de Foville への書簡(1883)」『彦根論叢』第412号、滋賀大学経済学会、2017、68-71.

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 François Guizot の自筆書簡（1833）について」『滋賀大学経済学部研究年報』Vol.25、滋賀大学経済学部、2018、123-126.

企画展関連年表

1787年 フランソワ・ギゾー生まれる。

1789年 フランス革命始まる。

1799年 ナポレオン・ボナパルトがクーデターを起こし、統領政府を樹立。

1804年 ナポレオンが皇帝の地位につき、第一帝政始まる。

1814年 ナポレオン退位し、エルバ島に流される。翌年ルイ18世が王位につく。

1826年 レオン・セー生まれる。

1830年 七月革命。オルレアン家ルイ＝フィリップが即位。七月王政が成立。

1832年 ギゾー公教育大臣に就任（37年まで）。

1833年 ギゾーからカトルメルへの書簡（第3期展示）

1848年 二月革命。ルイ＝フィリップ追放。ギゾー亡命。第二共和政成立。

1851年 ルイ＝ナポレオン・ボナパルトのクーデター。

1852年 ルイ＝ナポレオン・ボナパルトがナポレオン3世として皇帝の地位につく。
第二帝政成立。翌年よりセーヌ県知事オスマンによる「パリ改造」始まる。

1853年 クレマン・コルソン生まれる。

1870年 普仏戦争始まる。翌年、フランス敗退し、ナポレオン3世失脚。

1871年 パリで民衆蜂起。パリ＝コミュン宣言。コミュン鎮圧後、第三共和政成立。

1872年 レオン・セー財務大臣に就任（73年まで）。

1874年 フランソワ・ギゾー死去。

1875年 レオン・セー財務大臣に就任（79年まで）。

1883年 レオン・セーからド・フォヴィルへの書簡（第2期展示）

1887年 エッフェル塔の建設が始まる。89年一般公開。

1889年 レオン・セー財務大臣に就任。

1896年 レオン・セー死去。

1897年 ドレフュス事件始まる。

1914年 第一次世界大戦勃発。ドイツと開戦。

1918年 休戦条約。

1919年 パリ講和会議。

1923年 クレマン・コルソン、國務院の副院長に就任（28年まで）

1923年 コルソンからビネへの書簡（第1期展示）

1923年 ルール占領始まる。（25年まで）

1939年 クレマン・コルソン死去。

1939年 第二次世界大戦勃発。ドイツに宣戦布告。





La Liberté guidant le peuple（民衆を導く自由の女神）1830 年 / Ferdinand Victor Eugène Delacroix / ルーヴル美術館蔵

ドラクロワ (Ferdinand Victor Eugène Delacroix, 1798 - 1863) は、フランスの 19 世紀ロマン主義を代表する画家です。La Liberté guidant le peuple（民衆を導く自由の女神）は、1830 年に起きたフランス七月革命を主題に描かれました。本企画展「はるかなる手紙」の舞台は、1830 年代、1880 年代、1920 年代のパリです。



写真 : ©Bibliothèque numérique patrimoniale des ponts et chaussées



第 1 期：クレマン・コルソン (1853-1939)

クレマン・コルソンは、19 世紀末から 20 世紀にかけて、フランスで活躍したエンジニア・エコノミストの代表格である。「エンジニア・エコノミスト」とは、フランスの近代化の過程において公共事業にたずさわった高級官僚であり、職業上の必要性から経済理論の発展にも多大なる貢献をした。

コルソンは経済学者として、交通経済学の先駆けとして、またフランスで最初に国民所得の算定を行った人物として有名である。彼は経済学の教育・普及においても活躍し、同時に官僚として輝かしいキャリアを築きあげた稀有な人物である。2007 年度に滋賀大学図書館が購入した、彼の代表作『経済学講義』（全 6 巻）のうちの第 1 巻『経済現象の一般的理論』（1907）の中に挟まれていた手書きの書簡 2 通は、コルソンが官僚としてのキャリアの最高峰、國務院の副院長を務めていた頃に書かれたものである。

第 2 期：レオン・セー (1826-1896)

レオン・セーは、フランスの自由主義経済学者、実業家、政治家であり、「セー法則」で有名な経済学者 J. B. セー (Jean Baptiste Say, 1767-1832) の孫にあたる。レオン・セーは、フランスの財務大臣を 3 回務め (1872-73 年、1875-79 年、1889 年)、日本の明治政府ともゆかりのある人物として知られる。日本銀行の創設者である松方正義が 1870 年代ヨーロッパ滞在中に、当時の財務大臣レオン・セーから強い影響を受けたのである。

滋賀大学附属図書館は、レオン・セーの著書『フランスの財政—1881 年 12 月 15 日から 1882 年 12 月 20 日までの 1 年間の議論』を所蔵している。この本には、著者のレオン・セーが、有名な統計学者アルフレッド・ド・フォヴィル (Alfred de Foville, 1842-1913) に宛てた自筆書簡がそえられており、その内容から判断して、本書は、セーがド・フォヴィルに献呈した本であつた可能性が高い。

第 3 期：フランソワ・ギゾー (1787-1874)

ギゾーは、19 世紀前半に活躍したフランスの著名な政治家、歴史家である。

滋賀大学図書館は 2018 年 2 月に、ギゾーの代表作『ヨーロッパ文明史：ローマ帝国の崩壊からフランス革命まで』の英訳版 (1839) を購入した。その本には、1833 年 8 月 13 日付のギゾーの自筆書簡が添付されていた。

ギゾーはフランスの七月王政期、1832 年から 1837 年まで公教育大臣の職にあり、数々の教育改革に携わった。この書簡が書かれた約二か月前、1833 年 6 月 23 日には、有名な初等教育法案「ギゾー法」が成立している。この書簡も公教育省の便せんが使われ、肩書も「公教育大臣」となっている。書簡の内容は、神学部のヘブライ語教育に関するものである。



1920s Paris

①オペラ座界隈
戦間期にあたる1920年代のパリは、大幅な人口増加に伴い、公共交通網の整備が急がれていた。自動車は、一般的な通勤手段としてはまだ普及していなかった。

②Tugboat at the Pont Neuf, Paris (ボン・ヌフのタグボート、パリ) 1923 年 / Paul Signac (ポール・シニャック) / メトロポリタン美術館蔵
セーヌ川とシテ島にかかる橋、「ボン・ヌフ (Le Pont Neuf)」は、日本語に訳すと「新しい橋」という意味であるが、1630年から1660年にかけて建築された、パリで最も古い橋である。

③アレクサンドル 3 世橋とアンヴァリッドのパノラマビュー（ポストカード）1920-30 年頃

Palais-Royal パレ・ロワイヤルの 歴史

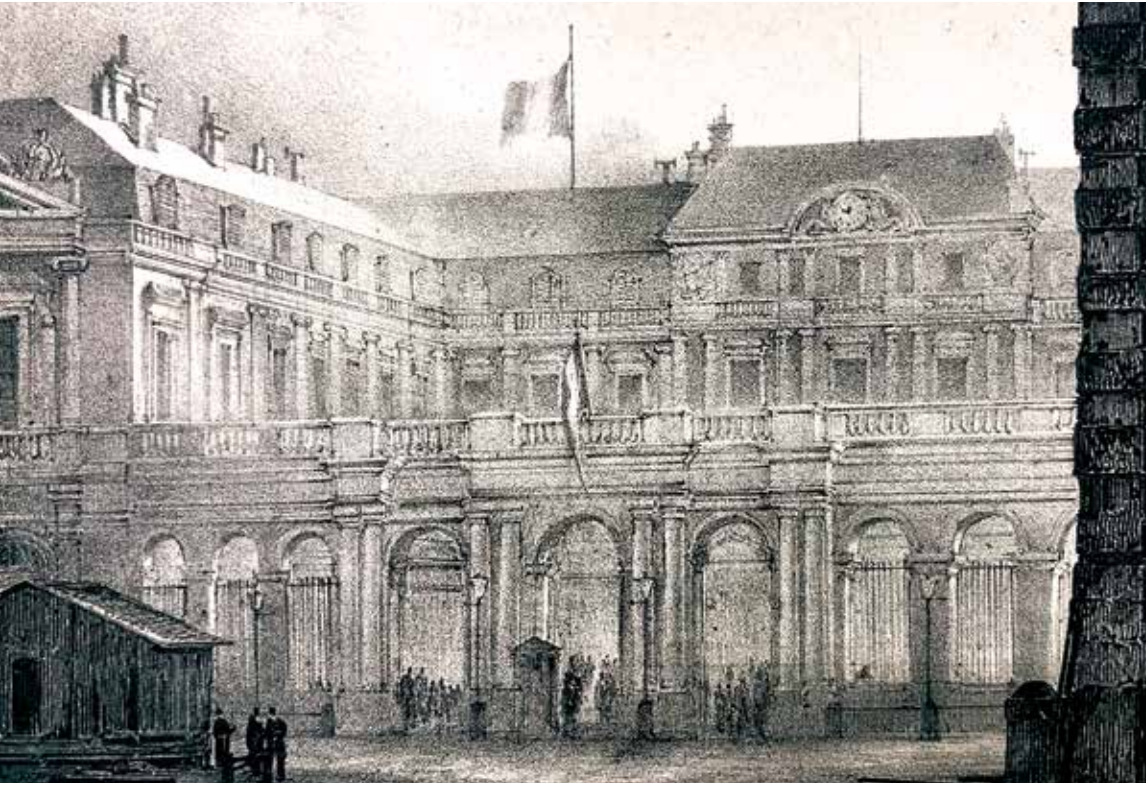
書簡の舞台となった国務院は、現在、パリのパレ・ロワイヤル（Palais-Royal 王宮）内にある。パレ・ロワイヤルはルイ13世の宰相リシュリユー（1585-1642）が17世紀の初めに建造した館である。

リシュリユーの死後、太陽王ルイ14世（1638-1715）が子供時代をここですごしたため「王宮」と呼ばれるようになった。

1692年にパレ・ロワイヤルは、ルイ14世の弟のオルレアン公ルイ＝フィリップ（1640-1701）の手に渡り、その孫であるフィリップ平等公（1747-1793）は、フランス革命直前の1780年代、庭園内に造った建物を商人たちに貸し出し、借金返済にあてた。当時、警察の立ち入りが禁止されていたパレ・ロワイヤルは、娼婦が行きかう繁華街となり、また革命家たちの拠点ともなった。

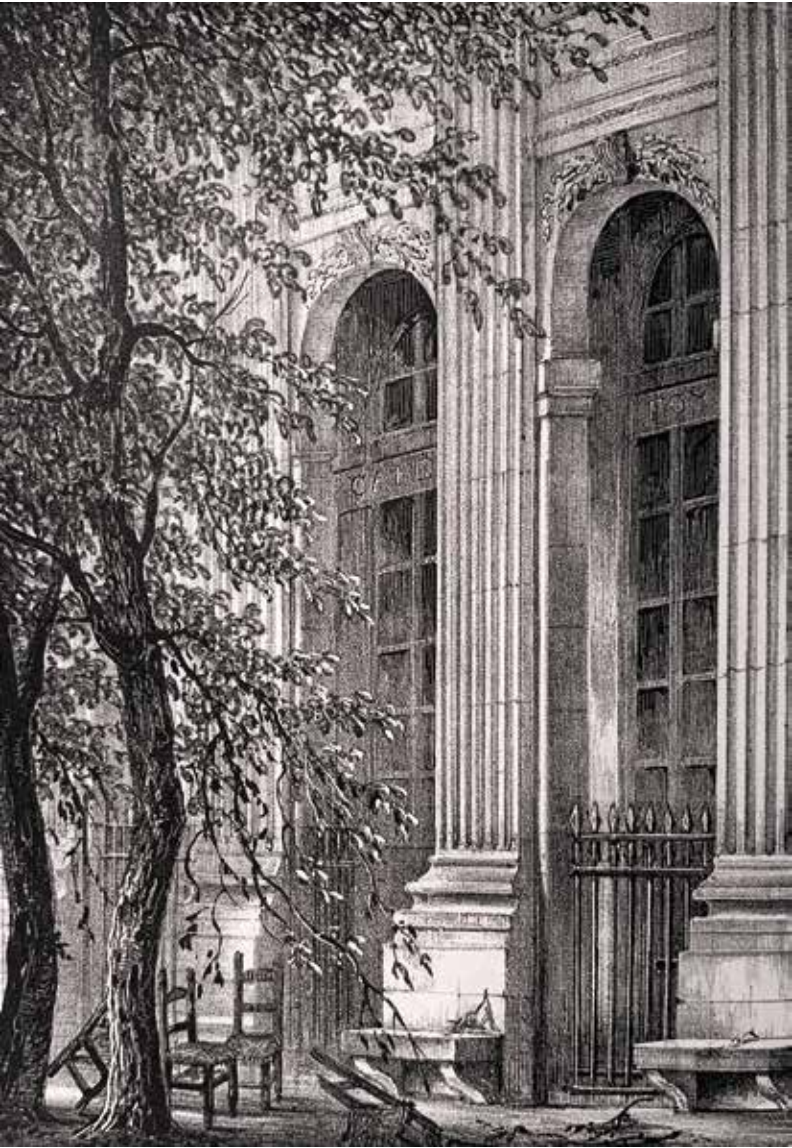
1815年にパレ・ロワイヤルは、オルレアン家に返還され、第二帝政の下では、ナポレオン・ボナパルトの末弟であるジェローム・ボナパルト（1784-1860）が所有した。国務院は1875年以来パレ・ロワイヤルにおかれている。現在、パレ・ロワイヤルには、国務院、文化庁などの行政機関とともに、ルイ14世が設立した国立劇場「コメディ・フランセーズ」も入っている。

Louis XIV en costume de sacre（ルイ14世の肖像）1701年
/Hyacinthe Rigaud（イアサント・リゴー）
/ルーヴル美術館蔵



Palais-Royal.(パレ・ロワイヤル)

Paris historique: promenade dans les rues de Paris, par Charles Nodier, Auguste Regnier et Champin; avec; un resume de l'histoire de Paris, par P.Christian [pseud.]
Pris: F.G.Levrault, 1838-1839



Jardin du Palais-Royal.(パレ・ロワイヤルの庭)

Paris historique: promenade dans les rues de Paris, par Charles Nodier, Auguste Regnier et Champin; avec; un resume de l'histoire de Paris, par P.Christian [pseud.] Pris: F.G.Levrault, 1838-1839



現在のパレ・ロワイヤル 2006年撮影

TITLE
はるかなる手紙 滋賀大学附属フランスの異文化理解センター
1st. Clément Colson 2nd. Léon Say 3rd. François Guizot

数学者 アンリ・ポワンカレ（Henri Poincaré）

ポワンカレ（Henri Poincaré, 1854-1912）は、理工科学校（エコールポリテクニック）でコルソンと同級生であった。ポワンカレは 1873 年に同校で一位の成績を修めている。ポワンカレの卓越した研究は、数論、関数論、微分方程式、位相幾何学から天体力学にまで及んだ。

現代の数理経済学の基礎を築いた経済学者ワルラスは、1901 年 9 月に、効用（満足）の数学的表現について質問状をポワンカレに送った。それに対してポワンカレは、「計測

不可能な量も、あなたが守っている一定の条件の下では、完全に数学的表現の対象となりえます」と返答した。ワルラスとポワンカレのこのようなやりとりは、現代経済理論の歴史に大きな影響を及ぼすことになった。

デュピュイと「消費者余剰」

フランスの公共事業にたずさわった「エンジニア・エコノミスト」たちは、現代の経済理論の発展に大きな貢献をした。その中でも最も知られているのは、「消費者余剰」の概念を初めて説明したデュピュイ（Arsène Jules Etienne Juvénal Dupuit, 1804-1866）であり、コルソンの大先輩にあたる。デュピュイは1822年、理工科学校（エコールポリテクニック）に入学し、1824年に土木学校に入学した。理工科学校は、1794 年、革命政府により設立され、土木学校などに入学する学生が基礎科学を修得するための学校と位置付けられるようになっていたが、当時、土木学校に入学を許されたのは、理工科学校で優秀な成績を収めていた者だけであった。デュピュイは、生涯、数多くの公共事業に携わり、また土木学校での経済学の教育、研究においても、大きな貢献

ワルラス『純粋経済学要論』（1926）決定版

レオン・ワルラス（Léon Walras, 1834-1910）は、一般均衡理論の創設によって、現代経済学の理論的基礎を築いたフランスの経済学者である。当時のエンジニア・エコノミストたちの華々しい活躍とは対照的に、ワルラスは自らの経済学をフランスで普及するのに大変苦勞をしていた。

1870 年にフランスを離れ、スイスのローザンヌ大学で教鞭をとっていたワルラスは、そこで数理経済学の研究に没頭し、1874 年から 77 年に主著『純粋経済学要論』（初版）を出版した。そこで展開された一般均衡理論はスイス、イタリア、アメリカなどに普及し、国際的な名声を勝ち得たが、意外なことに母国フランスでは受け入れられなかった。フランスの高等教育機関で教えたいというワルラスの夢はついにか

なうことはなかったのである。

実は、ワルラスは青年時代、理工科学校（エコールポリテクニック）への入学に2度挑戦し、結局果たせなかったという挫折を経験している。その後入学した鉱山学校も中途退学しており、フランスでは正式な高等教育を受けていない。現代の数理経済学の基礎を築いたワルラスは、デュピュイやコルソンの輝かしい学歴とは無縁のアウトサイダーだったのである。



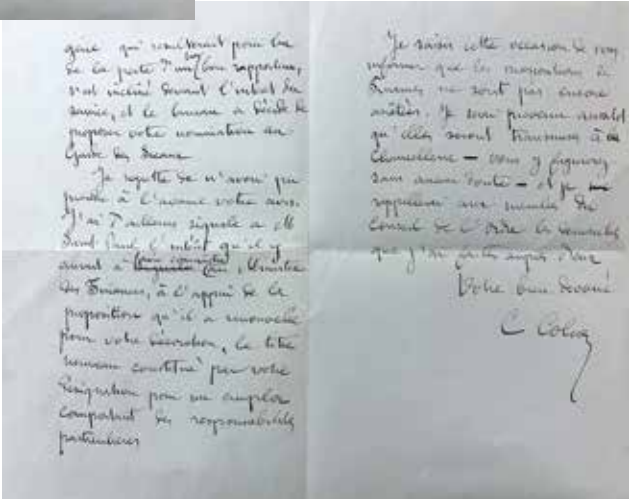
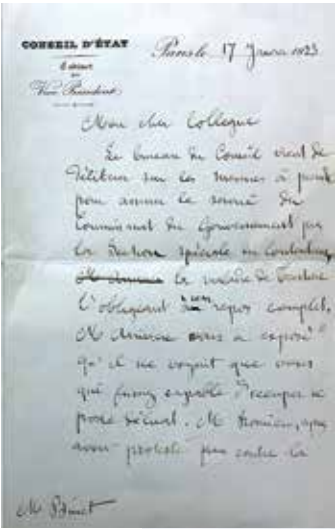
Henri Poincaré



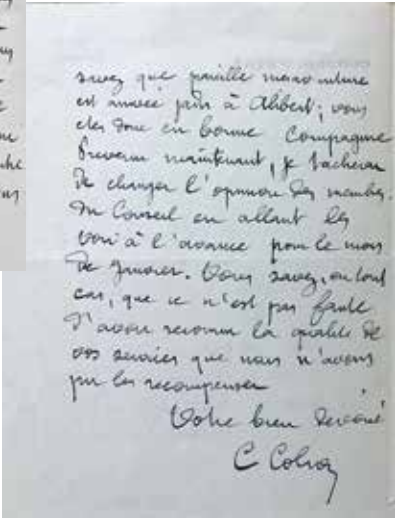
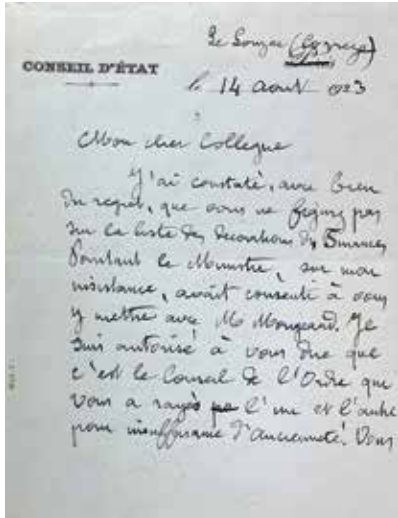
Arsène Jules Etienne Juvénal Dupuit © Ecole des Ponts Paris



Léon Walras



▲ポール・ビネへ宛てたコルソン直筆の書簡(1923 年 1 月 17 日) / 滋賀大学附属図書館蔵



▲ポール・ビネへ宛てたコルソン直筆の書簡(1923 年 8 月 14 日) / 滋賀大学附属図書館蔵

TITLE
はるかなる手紙 滋賀大学附属フランスの異文化理解センター
1st. Clément Colson 2nd. Léon Say 3rd. François Guizot

 国務院 副院長官房		
	1923 年 1 月 17 日パリにて	
	親愛なる同僚へ	

国務院の事務局は、訴訟の特別課に政府の委員職を確保するために取るべき手段について討議したところです。❏の病のために、それは完全に休止することを余儀なくされていました。アリヴィエール氏は我々に、この難しい任務に就くことができるのは、あなたにおいてほかはないと説明しました。ポニエ氏は、彼にとって、とてもよい報告者を失う結果、生じるであろう不都合に抗議したあと、その任務のメリットに従うことにし、事務局は、あなたの任命を司法大臣に提案することを決定しました。私は、前もってあなたに相談できなかったことを悔やんでいます。さらに私はサン＝ポール氏に、あなたの勲章のために彼が書き換えた提案を根拠として、財務大臣に知らせるべきメリットのことを指摘しました。特別な責任を伴う業務にあなたを任命することにより生じる肩書きのことです。この機会を利用してお知らせしますが、財務省の❏はまだ終わっていません。それらが勲位局に手渡されたらすぐに、知らせてもらえるでしょう。あなたがそのリストに載ることは疑いありません。私は、勲位委員会のメンバーに、私がした要求について念を押しておきます。

❏ … 解読不能

敬具

C. コルソン

 国務院		
	ル・ロンザック（コレーズ県）にて	
	1923 年 8 月 14 日	
	親愛なる同僚へ	

残念ながら、財務省の勲章リストにあなたの名前がないことがわかりました。しかしながら、大臣は、私が主張したため、あなたをムジョー氏とともに、リストに付け加えることに同意していました。年功の不足からあなた方二人をリストから消したのは、勲位委員会だということをお伝えします！似たような内部的処置は、かつてアリベールにも行われました。したがってあなた方は良き仲間だというわけです。今や知らせを受けたので、1 月のために前もって委員会のメンバーに会いに行き、彼らの意見を変えるつもりです。おわかりのように、いずれにしても、あなたの業績の質を認識しそこなったものではありません。我々はそれに報いることができなかったのです。

敬具

C. コルソン